保健衛生

【病院・医院・高齢者施設】

○かつて昭和24年に余田が無医村になり、村民の窮状を見かねた市山太郎医師が村役場隣りに市山医院を開業し、住民の診療にあたるとともに、長年余田小学校校医をつとめ、児童の保健衛生の向上に寄与した。

○平成3年3月、尾林に特別養護老人ホーム松風苑が完成。続いて平成8年4月、老人保健施設まつかぜが完成した。

○平成11年、尾林に坂本病院（昭和60年、市内に開業）が老人保健施設まつかぜの隣に移設し、長期療養などの慢性期医療を中心に一般外来診療も行う。

【伝染病隔離病舎】

○余田地区の伝染病隔離病舎は、明治32年着工、同34年竣工し、地区内の伝染病患者を収容していたが、国民医療法の改正により昭和26年周南伝染病院組合が設立されたことに伴い、旧神代村、鳴門村、日積村、伊陸村、柳井町、新庄村及び余田村の7ヶ町村組合立伝染病院が新たに建設されたことにより、昭和28年廃止された。

○伝染病患者の発生は明治から昭和20年には毎年数名から30数名（ゼロの年もあり）の発生があり、赤痢が多数を占めた。

【火葬場】

○かつて余田地区内には火葬場が6カ所あった。

昭和31年「余田地区新生計画書」より

火葬場名	敷地	使用部落
丸山火葬場	10坪	河添、中村、平田
神田火葬場	3坪	畑
坂本火葬場	30坪	坂本、小原、堀
水金火葬場	83坪	尾林、平、西山、蓮台寺
潮見火葬場	30坪	小平尾、今出、院内、中郷
深田火葬場	30坪	保生地

このうち丸山火葬場と水金火葬場には煉瓦造りの屋根のある設備があり、葬祭の用具も備付があったが、ほかは露天で、設備としては不十分なもので、葬祭用具は自治会集会所に置かれているなど様々だった。こうした火葬場で棺桶を火葬するのに、各家で「薪3束とわら2束をのけておけ（備えておけ）」といわれていたという。

○昭和40年頃から柳井の火葬場を使うようになって、地区内の小規模の火葬場は使われ

なくなった。式場を備えた現在の柳井市斎苑（新庄）が平成10年供用開始し、また地区内にも葬儀式場柳井典礼会館が平成4年オープンして、葬儀から埋火葬にいたる様子も様変わりした。